

## 四つのテストに対する考え

言行はこれに照らして

- (1) 真実かどうか
- (2) みんなに公平か
- (3) 好意と友情を深めるか
- (4) みんなのためになるかどうか

ご存じのように、これが四つのテストです。

四つのテストは、(1)と(2)～(4)の2つに分析することが出来ると言われていています。(1)は言動そのもの内容に関するものであり、(2)～(4)は言動が述べられるべき状況に関する準則を示していると言われていています。

つまり、ロータリアンの言動はどんな場合でも(1)の真実でなければなりません。そして、実行・言動に関しては、(2)～(4)の準則に照らした上でなされなければならないと言うことでしょう。

職業奉仕に関しては、その後、R I は、1987～1988 年度に職業奉仕に関する声明を出しました。

その前文に、職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理想を生かしていくことを、ロータリーが育成、支援する方法である。と書いてあります。いずれも優れた職業奉仕の理念が掲げられており、これを実行したハーバート・テラーや先達ロータリアンが為してきた奉仕の実現は誠に立派だったと思います。

ただ、四つのテストにしろ、いろんな職業宣言にしろ、何が何でも常に厳格に適用しなければならないと言うことではなく、場合によっては適用しないことがよいケースもあると思います。例えば、不治の病と言われていたガン患者から、「私はガンではないのですか」と尋ねられた時、医師はどう答えたらよいのか。また、醜女から質問された美容師は「あなたは醜女です」とは誰も答えません。このような場合は、四つのテストに反してウソを言うべきだと思います。わが国には昔から「ウソも方便」という言葉があります。このように考えると「四つのテスト」よりも日本古来の常識の方が誠に適切です。

但し、我々は、「ウソも方便」と言って、ウソをついた良心の呵責を免れようとする傾向があります。ウソはどこまでもウソであり、「ウソも方便」という場合のウソはその相手に対する温情と慈悲がその底にあるものでなければならない事を忘れてはならないと思います。四つのテストの(2)～(4)の準則に照らしながら、その時の状況に応じて、社会通念に従って判断し言動することが必要ではないでしょうか。